

議 事 録

令和 8 年度淡路市地域公共交通会議

日時：令和 8 年 6 月 19 日 14 時～15 時 00 分

場所：淡路市防災安心センター 2 階 多目的ホール

出席者：委員 13 名（欠席 2 名、委任状 2 名含む）

事務局：池本（都市整備部都市総務課特命参事）、福谷、寺下

会長：植松副市長

副会長：永井委員（互選により選出）

1. 開会及び資料確認

- ・司会（事務局）より、資料（令和 8 年度地域公共交通会議冊子および追加資料）の確認があり、問題なし。
- ・会議正式成立の報告（委員 15 名中 13 名出席、委任状 2 名含む）。

2. 会長挨拶（植松副市長）

- ・地域公共交通の課題と現状説明。
- ・路線バス、コミュニティバス、海上交通（ジェノバライン・まりんあわじ）への支援について言及。
- ・今後の交通体系維持発展に向けた協力呼びかけ。

3. 副会長選出

- ・副会長を淡路市理事の永井委員に選出。
- ・異議なしで承認。

4. 報告事項（事務局 福谷より）

報告 1：淡路島地域公共交通計画の実施状況（4 ページ～7 ページ）

- ・2018 年に国・県と連携し「淡路島地域公共交通網形成計画」を策定。
- ・令和 6 年 3 月に新計画を作成、持続可能な交通ネットワーク構築を目指す。
- ・5 つの目標：推進体制構築、利便性向上、日常移動手段充実、非日常移動手段充実、持続可能性の実現。
- ・具体施策例：新路線運行、バス乗継の無料化、自主運行バスの継続・拡大、アプリ・システム導入（busmo、あデジ）など。

報告 2：運転免許サポート制度の拡充と交通弱者対策（8 ページ）

- ・高齢者の免許自主返納者に対し、コミュニティバス無料券の配布期間を 5 年間から 7 年間に延長。
- ・令和 8 年 9 月 1 日開始予定。
- ・福祉部門と連携しさらなる交通弱者支援制度を検討予定。

報告 3：あわ神あわ姫バス年末年始運賃無料の実施状況（9 ページ）

- ・令和 7 年 12 月 29 日～令和 8 年 1 月 3 日に 3605 人利用（前年は 3403 人）。
- ・交通渋滞緩和、市民負担軽減、新たな公共交通利用促進が目的。
- ・利用者数は運転手によるカウンターで実数をカウント。

追加報告：令和 8 年度第 1 回運賃協議部会協議結果（追加資料）

- ・洲本市と淡路市を結ぶ縦貫線に新停留所 3 ヶ所追加。
- ・追加停留所の運賃設定を決定
- ・公聴会を含む意見公募を 6 月 2 日～16 日に実施し、適切な手続きを経て運賃部会にて承認。

5. 質疑応答

- ・植松会長より報告 3 の無料デイ乗車人数カウント方法の確認。事務局より運転手がカウンターで実数をカウントしている旨説明。
- ・竹原委員代理より、利用者数以外のデータ（アンケート等）取得について質問。事務局

は今後アンケートの実施を検討すると回答。

6. 議題 1：淡路市コミュニティバスの評価検証（案）

事務局説明

- 白ナンバーコミュニティバス運行（自家用有償運送）について、令和 7 年度実績をもとに評価検証を実施。
- 評価基準（三つのカテゴリー）
 1. **運行基準**：週 2 日以上の実行、最低 4 便（往復 2 便）以上の設定。
 2. **利用基準**：1 便あたりの平均利用者数 1.0 人以上（前回の「最低限」文言は削除、基準未達の場合は地域実情に応じて検討）。
 3. **運行費用基準**：令和 4 年度比公的資金投入 1%削減を目標、かつ収支率 20% 以上を確保（市の負担は最大 80%まで）。

令和 7 年度実績概要（10～12 ページ）

- **淡路市生活観光バス北部（東浦北淡線、北部観光周遊周り）**
 - 利用人数：30,612 人
 - 便数：8,295 便、便当たり平均 3.7 人
 - 運行費用：約 3,803 万円、運行収入：約 1,060 万円
 - 公的資金投入額：904.1 円（一人あたり目標 781.1 円未達）
 - 収支率：27.9%（基準クリア）
- **岩屋コミュニティバス（岩屋バンバンバス）**
 - 利用人数：46,453 人
 - 便数：10,950 便、便当たり平均 4.2 人
 - 運行費用：約 1,230 万円、運行収入：約 469 万円
 - 公的資金投入額：125.9 円（目標 149.7 円クリア）
 - 収支率：38.1%（基準クリア）
- **長沢地区コミュニティバス（長沢ミニバス）**
 - 利用人数：2,284 人
 - 便数：2,522 便、便当たり平均 0.9 人（基準未達）
 - 運行費用：約 354 万円、運行収入：約 88 万円
 - 公的資金投入額：1,199.3 円（目標 911 円未達）
 - 収支率：24.9%（基準クリア）
 - 利用減少傾向が見られるが、スクールバス利用が減る一方、町内会などの呼びかけで利用者全体は増加。運行内容（便数、運行日数、運行方法）の見直し協議を行い、現状維持が妥当と結論。
- **山田地域デマンド交通（ハピバス山田号）**
 - 利用人数：1,072 人
 - 便数：275 便、便当たり平均 3.9 人
 - 運行費用：約 233 万円、運行収入：約 12 万円
 - 公的資金投入額：1,363.3 円（目標 1,077.6 円未達）
 - 収支率：5.1%（基準未達）
 - 免許返納者の運行費用分（約 74 万円）を市が負担しており、その分を含めると収支率は 37.1%と基準クリア。

委員質疑

- 平田委員：山田地域の免許返納者の利用実績に関し、利用人数の扱いと収支率算定について説明を要請。
- 事務局：免許返納者の利用は延べ利用回数でカウントしており、収支率には免許返納者に対する市補助は含まれていないことを説明。
- 廣田オブザーバー（長沢コミュニティバス運転者）より、地域住民との交流や安全運行の取り組みについて紹介。

評価検証案の決定

- 全 4 路線について今年度も運行継続の方針を全会一致で承認。

7. 議題 2：岩屋地域コミュニティバス（岩屋バンバンバス号）の路線変更（案）

事務局説明（13～19 ページ）

- 現行路線の起点・終点や運行形態は変えず、経路の一部を変更しバス停 1 つ追加・1 つ削減。
- 一便の所要時間は約 10 分延長（25 分→35 分）、便数は 24 便に削減（従来 30 便）。
- 新設バス停は地域要望の強い淡路インターチェンジ高速バス停前。
- 変更経路詳細と時刻表も提示。
- 運賃・運行事業者は変更なし。運行開始予定は令和 8 年 10 月 1 日。

委員意見

- 橋本委員代理：通勤時間帯のダイヤに関する利用者便宜の指摘。

決定

- 原案通り承認。

8. 議題 3：山田地域デマンド交通（ハピバス山田号）路線追加案

事務局説明（20～23 ページ）

- 現行路線 11 系統に加え、新たに深草清水谷地区～生穂新島地区の 1 系統を追加。
- 市役所直行ルートの新設し、現行の志筑経由ルートより約 10 分短縮。
- 利用者要望に対応（特に期日前投票利用の便宜）。
- 運賃・運行形態に変更なし。運行開始予定は令和 8 年 10 月 1 日。

決定

- 原案通り承認。

9. その他

国（竹原委員代理）より

- 淡路島全体で交通空白解消に向け、島内 3 市の毎月担当者会の開催、福祉・教育分野等との連携強化を評価。今後も協力推進を期待。

10. 閉会挨拶（植松会長）

- 交通路線維持に関係機関の協力をお願いし、閉会とした。
- 事務局より謝辞。

以上